

## 川崎港置き場 瀬崎林業 形

# 利便性光る港湾在庫拠点

## 多品目・熱処理・倉庫と多様な強み

輸入材をはじめとした木材集積地として関東の流通拠点の一つである神奈川県川崎港だが、近年は食品倉庫や中古車輸出の敷地利用が増え、木材の取り扱いが縮小傾向にある。そうしたなか、梱包材問屋である瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）は長年、同港で資材置き場を運用し、在庫機能と利便性の高い配送機能を発揮している。

約2000坪の新倉庫の運用を始めた。主にLVLや杉KD材の保管施設として活用しており、同社の取り扱い品目多様化を支える設備の一つといえる。雨をシャットアウトできる倉庫は、販売量が伸びてきた中国・ベトナム産のLVLや合板の品質管理に貢献している。将来的に杉KD材取扱量の増加を見据えているため、倉庫の増設も検討していくという。

### 木材置き場として貴重

木材置き場が減った現在の同港では、同社の置き場はひと際存在感を放つ。物流拠点として有益な立地である港湾周辺は、様々な産業から熱視線を送られている。10年ほど前から、輸出入中古車の保管や冷凍食品の大型倉庫など、木材

以外の産業用への敷地転用が加速してきた。同社置き場の使用料や荷役業者の作業料も過去数年間で20%以上上昇し、同社のコスト負担は増している。また、同社置き場の総面積や取扱量も、ピーク時に比べると縮小した。そのため置き場スペースの高効率運用を目指し、他樹種への需要転換が見られた矢板など一部のチリ材品目は取り扱いをやめ、梱包木箱向け資材に力を入れるなどの戦略を取ってきた。

同社は今後もコスト対策や運用の工夫に取り組みながら、引き続き同港での在庫体制の維持、強化を図っていく。

梱包業者が集中する横浜周辺への資材デリバリー効率を考慮すると、同港の置き場は重要性が高い。仮に同港に輸入資材を入荷後、他地域にトラック輸送して在庫した場合、横浜近郊の梱包業者への資材納品に時間を要してしまう。だが同港で在庫していれば、トラック積み込みから納品までを短時間でこなすことができる。都心方面にもアクセスが容易なため、タイムリーできめ細かい納品にはやはり同港が最適なのだ。

倉庫保管は水濡れ防止に役立っている



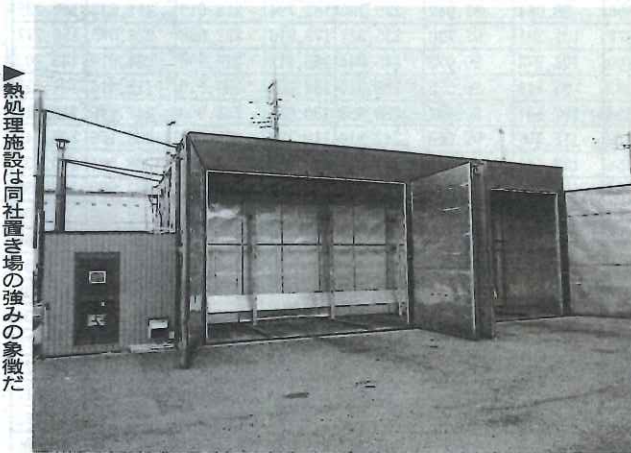
同社の川崎港の置き場は敷地面積約1万6000平方メートルで、約1万立方メートルの資材を取り扱っている。在庫品比率はチリ産梱包材60%、70%、杉約20%。残りは米材・ロシア材・欧州材といった外材と、桧・カラ松・トド松といった国産材梱包材だ。また、中国産ポプラLVLなどの梱包用面材も在庫している。

同社の置き場は、敷地面積の広さと在庫品目の多さ以外にも強みがある。その

また6月からは、敷地内



▲岸壁に近接した置き場はチリ材主体に充実の在庫体制だ



▲熱処理施設は同社置き場の強みの象徴だ